

原発は地震に耐えられる」の根拠がくつがえった

新潟県中越沖地震！

万万が一の地震より大きな地震が実際に原発を襲った！

それでも電力各社は 余裕があるので大丈夫」と評価

原発に頼るエネルギー政策の転換を！ 全原発を廃炉に！

10・26反原子力デー みんなで関西電力に申し入れをしましょう

10月 26日 (金) 午後6時～ 関西電力本社

(地下鉄四つ橋線 肥後橋 駅下車、徒歩5分)

若狭の原子力発電所は、マグニチュード7.3の直下地震に耐えられますか？

37年経った美浜原発では、すべての箇所が痛み、ぼろぼろになってきています。
それでも、直下地震に耐えられますか？

電力各社は9月20日、柏崎刈羽1・4号の原子炉建屋基礎版上で観測された地震動に対する安全機能の確認」について「自主的に検討した結果を一斉に経済産業省原子力安全・保安院へ提出しました。

柏崎刈羽原発を襲ったこの新潟県中越沖地震は、東京電力が想定していた限界地震の大きさをはるかに越えていました。それでも電力各社の報告には「原発の耐震評価が甘かった」との反省もなく、事態を深刻に受け止める風でもなく、実際に起こりうる大地震への対策を見直すという姿勢すらみられません。

これで原発は地震に対して安全と言えるのでしょうか。

私たちは、9月28日に関電交渉をおこないました。関電広報部は「実際の地震動が、原発設

計時に考えた地震動を越えても良いとは考えていない。今回の評価はあくまでもそのような地震が起きたら耐震安全性が確保されるかという仮定の話だ。」と釈明しました。それでも、「美浜・大飯・高浜原発で設計時を上回る地震が襲っても、許容範囲内だから大丈夫でしょう」という報告で逃げているのです。

今回、電力会社が教訓とすべきは、
・原発の耐震設計の安全審査において大きな間違いを犯しているのだから、根本的に安全審査をやり直すべきです。

・原発の安全性を確保したいならば、少なくともM7.3の直下地震を想定し、原発を襲う地震動の設定をやり直し、安全評価し直すべきです。

しかし、やり直すとはしていません。

国や電力は、地表に現れている原発周辺の

活断層を調べて地震規模を想定していますが、どんなに緻密に調査しても、事前に地震の規模を正確に予想するのは困難です。地表に活断層が現れていない場所で実際にM7.3の地震が起こっています。たとえば、7年前の鳥取県西部地震(M7.3)がそうですし、阪神・淡路大震災をもたらした兵庫県南部地震(M7.2)でも六甲側で地震断層は現れませんでした。だから、どの原発でも「M7.3を想定すべきだ」と私たちは主張しているのです。

原発の耐震設計時に考えた地震を超える大きな地震が原発を襲ったのは、これで4回目です。

最初は、今から4年前の5月、三陸南地震(M7.1)が東北電力の女川原発を襲いました。2回目は2年前の8月、宮城県沖地震(M7.2)がまたもや女川原発を襲いました。3回目は今年の3月、能登半島地震(M6.9)が志賀原発を襲いました。今回の新潟県中越沖地震(M6.8)が4回目です。原発が運転を開始してからわずか40年近くで、原発耐震設計用基準地震動を実際の地震動が4回も超えたということは、国や電力会社の地震想定が間違っており、政府の安全審査に重大な欠陥(瑕疵)があることは明々白々です。すべての原発を止めて、M7.3の地震を想定して安全審査をやり直すべきです。

しかしながら、電力各社は柏崎刈羽1・4号を襲った地震動で安全評価を行い、新潟県中越沖地震で原発を襲った地震動に対して、原発の施設に起こる揺れの力は、許容範囲内に納まっているから大丈夫だ」と、とんでもない評価を下して、事態の收拾を図ろうとしています。

柏崎刈羽原発の地盤は特に軟らかく「解放基盤表面」から原子炉建屋へ地震波が伝わる間に、特に短周期の地震波が減衰したため、建屋基礎版上の地震動はかなり小さくなっている可能性があります。この減衰した地震動でも東京電力の設計時の想定を超えたのですから、減衰する前の解放基盤表面での地震動はもっ

とすさまじいとでしょう。だから、解放基盤表面での地震動を正しく評価させ、全原発の耐震安全性を評価し直すよう求める必要があります。

原発の施設はつかえ棒でガチガチに支えているため、0.02秒から0.4秒の短い周期の地震動(ビビリ地震)に弱く、短周期の地震動を「減衰」させずに伝える岩盤の上に原発が建てられていると非常に危険です。とくに直下地震や近距離地震はより強い短周期地震波を原発へ伝えるため一層危険です。

その意味でも、今回の地震で重要なのは、「解放基盤表面での地震動」の特に短周期地震波を正しく評価させることです。この耳慣れない「解放基盤表面での地震動」とは、地下岩盤上での地震動の大きさを想定し、そこから原発施設への影響を評価する安全設計の大元としての地震動なのです。今回の地震による解放基盤表面での地震動は原発設計時の基準地震動を遙かに超えていることでしょう。この地震動を用いて全原発の耐震安全性評価を行わせる必要があるのです。

しかし、地震から2ヶ月経った今でも、この地震動がでてきません。柏崎刈羽に特有の軟らかい地盤による「減衰」効果を矛盾なく説明できないためか、それとも、ビビリ振動をできるだけ小さく見積もろうと画策しているためでしょうか。

さらに、古くなった原発は、新品より痛み、もろくなり、地震の力に崩れる危険がますます高まっています。何しろ、どの電力会社も、毎年の定期検査でデータを改ざんしたり、まともな点検すらおこなっていない危険きわまりない会社なのですから。

10月26日は、反原子力デーです。毎年、関西電力本社との交渉をおこなってきました。今回もこの重要な「原発の耐震性に問題あり」のテーマで、追及していきます。

10月26日金曜日、午後6時から関電本社に対し、共に危険な原発を止めるための行動をしていきましょう。多くの参加を呼びかけます。

~~~~~ 今後の予定 ~~~~~

10月26日(金) 午後6時

## 反原子力デー 関電交渉

場所 関西電力本社 (地下鉄四つ橋 肥後橋 駅下車歩7分)

11月3日(土) 午後1時~3時

## 喜友名さんの労災認定を勝ち取ろう 街頭署名

場 所： 梅田陸橋

連絡先 072-939-5660 久保まで

11月11日(日)

## ウラン兵器禁止 国際行動デーin神戸

街頭署名 午後1時から

JR元町駅東口南広場

国際行動連帯集会 午後2時半~5時

こうべまちづくり会館 2階ホール (JR元町駅より 徒歩6分)

### 呼びかけ：ウラン兵器 禁止を求める国際連合(ICBUW)

賛同 :NODU (ウラン兵器禁止)神戸プロジェクト、地球救出アクション97、さよならウラン連絡会、原発の危険性を考える宝塚の会、ヒバク反対キャンペーン、チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西、若狭ネット

連絡先 078-843-3556 北川 072-939-5660 久保

#### 編集後記

- ・ 越前市の山崎さんが、9月に新聞折り込みを行いました。新潟県中越沖地震を踏まえ、「原発と地震」をテーマに緊急講演会を開き、多くの人達が参加されました。地元の地震に対する危機感はますます強まっていると感じました。新聞折り込み基金にご協力、ありがとうございました。何とか、越前市への新聞折り込み10万円を賄うことができました。今後もご協力をお願いします。 振込口座番号 00940-2-100687 若狭ネット
- ・ 国による原発の地震対策は、やはりお粗末なものでした。原発の周辺の活断層をどんなに詳しく調べても、実際に起こる地震の大きさを事前に決めることなどできません。設備に設計余裕があるから大丈夫だと宣伝していますが、施設や設備は、原発を運転し始めてから30年以上経っており古く、もろく壊れやすくなっています。毎年の定期検査も平然とデータ改ざんや手抜き検査ですませているのですから、地震に耐えられる代物かと不安は大きくなるばかりです。

きよ子